

詩編 121 篇 1-8 節

全能の神は我らの味方

121:1 私は山に向かって目を上げる。私の助けは、どこから来るのだろうか。

121:2 私の助けは、天地を造られた【主】から来る。

121:3 主はあなたの足をよろけさせず、あなたを守る方は、まどろむこともない。

121:4 見よ。イスラエルを守る方は、まどろむこともなく、眠ることもない。

121:5 【主】は、あなたを守る方。【主】は、あなたの右の手をおおう陰。

121:6 昼も、日が、あなたを打つことがなく、夜も、月が、あなたを打つことはない。

121:7 【主】は、すべてのわざわいから、あなたを守り、あなたのいのちを守られる。

121:8 【主】は、あなたを、行くにも帰るにも、今よりとこしえまでも守られる。

はじめに

今日のメッセージのタイトルの意味は、イエス様の信者にはどんな時でも、最強の味方がいるということです。今日は詩編 121 編を中心にしていきたいと思います。神様の守りと助けについて明確に書いてある箇所は 1 つです。この世のメディアに振り回されて、不安や恐れに陥らないように出来るだけこの短い詩編を暗記して、自分に言い聞かせる事が出来るようにして頂きたいです。全部覚えるのが無理な人でも、少なくとも最初の 1-2 節と最後の 7-8 節は簡単に出来るはずです。いつでも、神様の真実に焦点を合わせる事が出来る為に助けとなるでしょう。

1. 全能の神は我らの助け手 (1-3 節)

詩編 121:1-3. 「私は山に向かって目を上げる。私の助けは、どこから来るのだろうか。2 私の助けは、天地を造られた主から来る。3 主はあなたの足をよろけさせず、あなたを守る方は、まどろむこともない。」

正しい観点を持つ為に一番大切なのは祈りと聖書を読む事ですが、その上にこの箇所はもう一つの方法も教えています。キリストの信者として自然界を見る事によって信仰が大きく励まされるということです。この詩編は、山に向かって目を上げ、自然界全部を作った神様の大きさと力を思い出し、神が私たちの天の父として必ず助けて下さる事を思い出すように勧めています。

イエス様も同じように教えて不安や心配や恐れのある時に自然界を見るように言いました。空の鳥を見なさい、そして野原の花を見なさい、あなたの天の父があなたの面倒を見るのは当然です、一羽の雀でも、あなたの天の父の許しなしに地に落ちる事はありません、と。

詩編 121:1-2 節にあるように、万物の創造主が私の助けである事を読む時に、イエス様の信者はイエス様のもう一つの最も根本的な約束を思い出して裏付ける事が出来ます。

ヘブル人 13:5b-6 「主ご自身がこう言われるのです。「わたしは決してあなたを離れず、また、あなたを捨てない。6 そこで、私たちは確信に満ちてこう言います。「主は私の助け手です。私は恐れません。人間が、私に対して何ができましょう。」

あなたを助ける為に共にいるから、絶対にあなたを離れないであなたを捨てないと言う約束です。

ローマ 8:31 「では、これらのことからどう言えるでしょう。神が私たちの味方であるなら、だれが私たちに敵対できるでしょう。」

この約束の箇所の前後関係の中で解釈したら、神は味方に決まっている、とわかります。

今日の詩編は同じ事を少し違う表現で言っています。神様は疲れて寝てしまう事はないと言っています。

少し面白い実例をお話しましょう。以前、阪神淡路大震災の話の一部お話ししました。その時に神様の平安で満たされた貴重な体験をしたという話でしたが、その続きです。地震が起こった時、4人の子どもと妻は二段ベッドの間に避難して私はそのベッドをつかんでそばにいました。建物が崩壊しそうな強い余震が次々と来たので、子ども達はいつ地震が終わるの？と言っていました。私は、停電で真っ暗なので4階からどうやって家族を外に連れて行けるかと考えていました。家具や色々な物が壊れて洋服もなく裸足のままでは無理だと思っていましたが、また強い余震が来て突然、押入れのドアのすき間から光る光が射したのです。最初は光の天使が助けに来てくれたと思ったのですが、なぜ押入れの中なのかと思いました。押し入れを開けてみたら、3週間程前にクリスマスプレゼントとしてもらった息子の懐中電灯が上から落ちた時にひとりでに付いたのです。それだけではなく、その光で洋服と靴を見つけて皆が怪我することなしに外に出られました。そのことが起きる3週間程前に神様は予め解決策を用意して下さったのです。

詩編121:3 「主はあなたの足をよろけさせず、あなたを守る方は、まどろむこともない。」

2. 全能の神は我らの導き(4-6)

詩編121:4-6 「見よ。イスラエルを守る方は、まどろむこともなく、眠ることもない。5 主は、あなたを守る方。主は、あなたの右の手をおおう陰。6 昼も、日が、あなたを打つことがなく、夜も、月が、あなたを打つことはない。」

この箇所を読む時にイスラエルが神様によって奴隷生活から解放されて導かれて、道のない所で道が開かれた出エジプトの話しを思い出します。神は彼らを導く為に雲の柱の中におられて40年間も導いたのです。

出エジプト記13:21-22 「主は、昼は、途上の彼らを導くため、雲の柱の中に、夜は、彼らを照らすため、火の柱の中にいて、彼らの前を進まれた。彼らが昼も夜も進んで行くためであった。22 昼はこの雲の柱、夜はこの火の柱が民の前から離れなかった。」

神様は彼らを導く為に彼らの前を進まれたと書いてあります。これは何とも言えないほどの特権です。紅海を渡る事が出来ないはずだったのに、道のない所で海の中で道を作って下さって、あなたがたは行き止まりや行き詰まりが不可能だ、と教えたのです。言い換えれば、どんな時でも、失望をする必要はないよ、と実体験で教えてくださいました。

イエス様はその1500年後に、「私は良い羊飼いだ」という有名な話で同じ事を教えて下さっています。

ヨハネ10:3-4 「門番は彼のために開き、羊はその声を聞き分けます。彼は自分の羊をその名で呼んで連れ出します。4 彼は、自分の羊をみな引き出すと、その先頭に立って行きます。すると羊は、彼の声を知っているのです、彼について行きます。」

イエス様に従って行く人にとってもっと素晴らしい事を約束されて、この地上でも行き止まりも行き詰まりも不可能な人生が与えられて、しかも、天国に入るまでそれが約束されています。

ヨハネ10:27-30 「わたしの羊はわたしの声を聞き分けます。またわたしは彼らを知っています。そして彼らはわたしについて来ます。28 わたしは彼らに永遠のいのちを与えます。彼らは決して滅びることがなく、また、だれもわたしの手から彼らを奪い去るようなことはありません。

29 わたしに彼らをお与えになった父は、すべてにまさって偉大です。だれもわたしの父の御手から彼らを奪い去ることはできません。30 わたしと父とは一つです。」

最強の味方として私たちを御手の中で握りしめて天国に入るまで絶対に手放しません。私は絶対にあなたを離れない、あなたを捨てないと明確に言っておられます。イエス様はそれを強調する為に自分を良い羊飼いと雇い人とを比べてその違いを言っています。

ヨハネ10:11-13 「わたしは、良い牧者です。良い牧者は羊のためにいのちを捨てます。12 牧者でなく、また、羊の所有者でない雇い人は、狼が来るのを見ると、羊を置き去りにして、逃げて行きます。それで、狼は羊を奪い、また散らすのです。

13 それは、彼が雇い人であって、羊のことを心にかけていないからです。」

雇い人は逃げるが、私は絶対にあなたを置き去りにしないよ、それを証明する為にあなたの為に十字架の上で私は命を捧げるよ、と言っています。私はそれほどあなたの事を心にかけていると言

って下さっているのです。そういうわけでイエス様を自分の救い主として受け入れる人は絶対に失望させられる事はありません。イエス様以外の人に焦点を合わせたら失望させられるし、教会に焦点を合わせたら失望させられますが、人類の唯一の救い主に焦点を合わせたら、失望させられる事はありません。

ローマ10:9-11. 「なぜなら、もしあなたの口でイエスを主と告白し、あなたの心で神はイエスを死者の中からよみがえらせてくださったと信じるなら、あなたは救われるからです。

10人は心に信じて義と認められ、口で告白して救われるのです。11 聖書はこう言っています。「彼に信頼する者は、失望させられることがない。」

この言葉の最後の部分が繰り返して強く強調されています。新約聖書だけで3回、ローマ9:33、10:11、ペテロ第一2:6と、もちろん、旧約聖書にもありますから引用として書いてあります。

3. 全能の神は我らの守り(5-6節).

この詩編の全体に神様の守りについて明確に書いてありますが、5-6節に面白い言葉で表現されています。

詩編121:5-6 「主は、あなたを守る方。主は、あなたの右の手をおおう陰。6 昼も、日が、あなたを打つことがなく、夜も、月が、あなたを打つことはない。」

この部分が一番、出エジプトの経験を思い起こさせるところです。先程、導く為に神様は彼らの前を進まれた事を見ましたが、実はそれだけではありませんでした。砂漠は昼は大変熱くて夜大変寒いので、それで、昼に雲の柱と夜に火の柱の中で彼らを守る為にも雲と火を使っていたのです。どう言う意味で、ここに「あなたの右の手を覆う陰。」と書いてあるかと言う解釈が色々ありますが、間違いなく「あなたを守る方」の続きとして書いてあるから、最強の守りだと言う意味です。陰は陽からの守りが分かりやすいですが、火の柱の守りについては、紅海を渡るまでその火の柱が後ろに移って敵との間に入って守りました。霊的に適用すれば、私達の最強の敵はサタンです。サタンの攻撃から守られていますが、神様は私達に霊的な武器も与えて下さっています。信仰の大楯と御霊の剣である聖書の御言葉が含まれています。普段は兵士が左の手で大楯を持ちながら、剣を右手で持って出す必要がありますから、右の手は無防備な時があります。神様は私達の無防備な部分を守って下さいます。出エジプト記でそれが明確に見られます。後ろから、エジプトの軍隊が来てイスラエル人を攻撃して来た時に神様の火の柱が前から後ろに移ってしんがりとして守りました。別の聖書箇所でも神様はあなたのしんがりだと言っています。

イザヤ書52:12 「あなたがたは、あわてて出なくてもよい。逃げるようにして去らなくてもよい。主があなたがたの前に進み、イスラエルの神が、あなたがたのしんがりとなられるからだ。」

霊的なしんがりと考えてみれば、後ろからのサタンの攻撃は私たちの過去を利用して攻撃することです。神様は私達のしんがりなので、過去に何があっても、それによって危害を受ける事は絶対にありません。イエス様の十字架による新しい契約で神様と結ばれて全ての信者の罪は完全に赦されているから、神様は2度と思い出さず、引き出す事は絶対にしない事を約束されています。サタンはとてつもない嘘つきなので、イエス様はサタンを「告発者」という以外に「嘘の父」と言う名前で呼んだこともあります。自分の過去でも、過去の先祖の罪でも悪用しようとしません。それによって不安や恐れを起こして平安を奪って悩ませてしまうのです。それで、「嘘の告発者」だと言われている。残念ながら、クリスチャンの中でイエス様の十字架の血による新しい契約とモーゼによる古い契約の違いが分っていないクリスチャンがいます。そのようなクリスチャンで、旧約聖書を引用して「親の罪は子どもに来る。」と間違えて言う人もいます。それを絶対に信じないで下さい。神様はエレミヤと言う預言者を通して新しい契約の約束を一番明確に与えられて、次のように言いました。新しい契約が来る時について預言しています。

エレミヤ書31:29 「その日には、彼らはもう、『父が酸いぶどうを食べたので、子どもの歯が浮く。』とは言わない。」

その続きは31節から、聖書全体の中で一番明確に新しい契約の約束が来る日と書いてあります。その契約の一番の土台は完全な赦しで過去の事を全く気にする必要はないと言う意味です。もちろん、神様は誰よりも、予めサタンのずるい嘘を良く知っておられたから、私達を守る為にこの素晴らし

い約束を明確に与えて下さっています。過去の事を気にしたら、先祖の中に誰がいつどんな罪を犯したか知る事は不可能だし、それを気にしたらきりが無いから、サタンのやりたい放題になって誰も心の平安が持てません。イエス様の真理を知らない宗教の教えではこの嘘が一番お金の丸儲け手段として悪用されています。つまり、先祖の罪からの悪払いの為に取ってお金を取る宗教です。最強の神様の守りの中で、私達の一番無防備な後ろの過去でも、霊的なしんがりとして完全に守ってくださいます。それで、同じエレミヤ書の中で神の救いの計画について「災いではなくて平安の計画」と書かれています。

エレミヤ書29:11. 「わたしはあなたがたのために立てている計画をよく知っているからだ。――主の御告げ。――それはわざわいではなくて、平安を与える計画であり、あなたがたに将来と希望を与えるためのものだ。」その当時のイスラエル人の為の約束だけではなくて今日の詩編と一致します。

まとめ

詩編121:7-8 「主は、すべてのわざわいから、あなたを守り、あなたのいのちを守られる。8 主は、あなたを、行くにも帰るにも、今よりとこしえまでも守られる。」

これは最強の味方による全面的な最強の守りです。イエス様を救い主として信じて受け入れる人は他の守りを全く必要としません。ほかの物を使ったら、神様に対する侮辱になります。もう一つ、別の愛されている詩編の一部と比べて終わらしましょう。

詩編23:3-6 「主は私のたましいを生き返らせ、御名のために、私を義の道に導かれます。

4 たとい、死の陰の谷を歩くことがあっても、私はわざわいを恐れませんが、あなたが私とともにおられますから。

5 私の敵の前で、あなたは私のために食事をととのえ、私の頭に油をそそいでくださいます。私の杯は、あふれています。

6 まことに、私のいのちの日の限り、いつくしみと恵みとが、私を追って来るでしょう。私は、いつまでも、主の家に住まいます。」